

花粉発生源対策推進事業（拡充）

【平成30年度予算概算決定額 115,109（115,109）千円】

事業のポイント

花粉症対策苗木への植替えの支援、花粉飛散防止剤の実証試験、スギ・ヒノキの雄花着花状況調査等を実施します。

<背景>

- ・近年では国民の3割が罹患し国民病とも言われている花粉症は、医療費の支出、労働生産性の低下等国民経済上のマイナス要因となっています。
- ・これまで花粉症対策苗木の供給量が9万本（平成17年度）から426万本（平成27年度）に増加していますが、スギ苗木供給量全体に占める花粉症対策苗木の割合はまだ約2割という状況です。
- ・このため、花粉症の緩和に向け、関連した事業のより効果的、効率的に実施を図るとともに、総合的な花粉発生源対策の強化及び普及を促進することが必要です。

政策目標

スギ苗木の年間生産量に占める花粉症対策に資する苗木の割合
2割（平成27年度）→約7割（平成44年度）

<内容>

1. 総合的な花粉発生源対策の強化及び普及

花粉発生源対策にかかる調査及び技術開発の成果の普及、特色ある植替促進等の取組の情報収集及び発信を支援します。

2. 花粉症対策苗木への転換の促進

（1）花粉症対策苗木への植替えの促進

花粉発生源となっているスギ林において花粉症対策苗木への植替えやコンテナ苗による植栽結果の検証等を促進するため、スギの加工業者等が行う森林所有者への働きかけ等を支援します。

（2）花粉症対策品種の開発の加速化

スギ雄花着花特性を短期間・高精度で検査する手法の開発について支援します。

3. スギ花粉飛散防止剤の実用化試験

花粉飛散防止剤の実用化に向け、ヘリコプターによる液剤の林地散布を実施し、空中散布の基本技術を確立するとともに、低コスト・高品質な大量培養技術等の開発を支援します。

4. スギ・ヒノキ花粉の発生量推定の推進

スギ・ヒノキの花粉飛散量推定のための雄花着生状況調査及び実証調査を支援します。

<補助率>

定額

<事業実施主体>

民間団体等

<事業実施期間>

1. 平成30年度～34年度（5年間）
2. （1）平成28年度～32年度（5年間）
2. （2）・3. 平成29年度～33年度（5年間）
4. 平成26年度～30年度（5年間）

[担当課：林野庁森林利用課]

花粉発生源対策推進事業(拡充)

【平成30年度予算概算決定額115,109(115,109)千円】

【背景・課題】 スギ花粉症は国民の3割が罹患しているといわれており、花粉発生源対策の推進が必要。
これまで少花粉スギ等の花粉症対策品種の開発・生産拡大等に取り組んできたが、スギ苗木供給量全体に占める花粉症対策苗木の割合は約2割(平成27年度)。

総合的な花粉発生源対策の強化及び普及【10,000千円】

- 全国的な植替促進 → 特色ある地域の植替促進等の取組の情報収集・発信
- 花粉飛散予測の精度向上 → 花粉飛散予測に必要な雄花着花状況の提供
- 新技術の早期実用化 → 花粉発生源対策等に係る調査・技術開発事業の実施状況の評価 等

(情報発信の例)

特色ある植替の事例
→ (森林所有者) コンテナ苗等の植栽

雄花着花状況
→ (国民・医療機関) 飛散量情報を生活に活用

雄花着花状況
→ (都道府県) 飛散量推定

技術開発の進捗状況
→ (研究機関) 品種開発の実用化

技術開発の進捗状況
→ (農薬メーカー) スギ花粉飛散防止剤の生産

取組事例やコンテナ苗植栽状況の報告

開発状況の共有

雄花着花量情報の共有

花粉症対策苗木への転換の促進 【60,294千円】

- スギの加工業者・素材生産業者等が行う森林所有者への働きかけ
- コンテナ苗による植栽結果の検証(森林所有者からの活着や初期成長状況の聴取と分析)

伐って花粉症対策苗木に植え替えましょう。



いいね!

- スギ雄花着花特性を短期間に高精度で検査する手法の開発

スギ花粉飛散防止剤の実用化試験 【28,876千円】

- スギ花粉飛散防止剤の空中散布技術の開発
- 低コスト・高品質な大量培養技術の開発



＜花粉飛散防止剤により枯死した雄花＞

スギ・ヒノキ花粉の発生量推定の推進 【15,939千円】

- スギ・ヒノキの雄花着生状況等の調査
- 花粉発生量推定をより効率的に行うための実証調査



＜雄花着花量調査＞



【目標】 平成44年にスギ苗木の年間生産量に占める花粉症対策に資する苗木の割合を約7割